

LECTURE MEETING
RECORD

西条・新居浜地区生活習慣病ミーティング
～第1回 START Meeting～

MEMORIAL BOOKLET

日時 ■ 平成25年11月14日(木) 19:00～20:30

会場 ■ 西条国際ホテル 2F「菊の間」
愛媛県西条市大町771-1 Tel. 0897-58-4800



特別講演

本当に大丈夫? 心電図・エコー・ABI「正常」に潜む 心臓・血管疾患とその治療の最前線

日時／平成25年11月14日(木) 19:15~20:15

会場／西条国際ホテル 2F「菊の間」

座長／西条市民病院 院長 **間口 元文** 先生

演者

済生会西条病院 循環器科

金子 伸吾 先生



金子 伸吾 先生



間口 元文 先生

製品紹介

選択的DPP-4阻害剤グラクティブ®錠25mg・50mg・100mgについて

要旨

今回の講演の内容は、大まかに分類すると下記のものであった。

- 1：胸痛の鑑別診断「これだけ見逃さなければ大丈夫!」
- 2：健常時の定期検査が患者を救う・発作は一期一会
- 3：新しい病病連携・病診連携のカタチ「病院をうまく使う」

1：胸痛の鑑別診断「これだけ見逃さなければ大丈夫!」

胸痛の鑑別診断で重要なことは、急性心筋梗塞や不安定狭心症、急性大動脈解離、急性肺血栓塞栓症、気胸、食道破裂などの重篤な疾患を見逃さないことである。診断には心電図、単純レントゲン、血液ガス検査、CTなどがある。採血は結果までに時間がかかることやそもそも異常値が反映されるまでもに時間を要することがあり、臨床の最前線で診療を行っている医師が「これはおかしい」と感じたときに転送依頼のタイミングである。例えば、心筋梗塞では白血球上昇までに1時間、CPK上昇まで2時間、GOT上昇までに3時間、LDHに至っては5時間とされており異常値までの時間と検査結果が判明するまでの時間を合わせると「時間が勝負」の血管疾患患者をみすみす失ってしまうリスクがでてしまう。

2：健常時の定期検査が患者を救う・発作は一期一会

狭心症や間欠性の不整脈では「発作の時のみ」しか心電図変化はみられない。また、心筋梗塞でも心電図は単体でみるよりも過去のものと比較することではじめて分かる異常も多々ある。特に、65歳以上や糖尿病患者では知覚神経障害によりたとえ心筋梗塞であっても「胸痛」の典型的な症状が出ないことが多く、「なんとなくだるい」「のどが痛い」などの症状で来院した時に実は心筋梗塞であった、ということも散見する。疑ったときの病院への紹介では、必ず「健常時」「発作時」の心電図、服薬手帳(または処方箋のコピー)、可能であれば血液検査データ(当日のものでなくてよい)をいただきたい。

リスク因子(糖尿病(耐糖能異常)、高血圧、脂質異常症、肥満、喫煙、家族歴)を有する方、これまでに血管疾患(脳梗塞、閉塞性動脈硬化症など)の病歴がある方については、3ヶ月から6ヶ月に1度は定期的な心電図・ABI検査を行うべきである。エコー検査は無侵襲であり、積極的に行うべきであるが、診療所で行うには時間・場所・機器の負担が大きく、病院に依頼していただくほうがお互いにとってメリットがあると考えられる。済生会西条病院では年間に4000件の心・血管エコーを3人の「専任」生理検査技師が、同じく300件の冠動脈CTを専任の放射線技師が行っている。

閉塞性動脈硬化症(ASO)のスクリーニングとして注目されているABIであるが、動脈硬化が強すぎる場合、上肢にも狭窄がある場合、末梢にも狭窄がある場合には「正常値」として出てしまうためあくまで健康な方が対象のスクリーニング機器であり、疑わしい場合の検査機器ではないととらえている。

3：新しい病病連携・病診連携のカタチ「病院をうまく使う」

かつては、「一度病院に患者さんを紹介してしまうとその患者さんはもどってこない」ということが多かったがこれからは違う。「疑ったら」あるいは「疑わなくても定期検査」で紹介していただくことに躊躇は不要である。要望あるいはそれに付随する全ての検査、あるいは急

性期治療(カテーテル、アブレーション、ペースメーカー、在宅人工呼吸療法(ASV)や陽圧呼吸(CPAP、BiPAP)の導入、あるいは心不全薬や抗凝固薬の調整を行い、患者さんを診療所に逆紹介して再び継続フォローをしていただくというスタイルが患者さんにとってもメリットの大きい事と考えている。紹介はFAX1枚で診療予約が可能となりさらに予め要望のある検査も予約が可能となった。これにより患者さんを少しでも「待たせない」ことを目指している。また、その後の定期フォロー(病状により3ヶ月、6ヶ月、1年単位とすることが多い)も全てそのシステムをとることでより密な連携がとれると確信している。地域連携パスも整備拡充された。

循環器科においては、「Do」の外来再診患者さんを一人でも連携医の先生に紹介しフォローをお願いすることで、一人でも多くの治療対象あるいは調整や指導が必要な患者さんを受け入れる、あるいは細かくフォローすることをモットーとしている。

診療所の先生方には「済生会西条病院の検査機器は自分たちのモノ、ベッドも自分達のモノ」という認識で患者さんの紹介をいただければ幸甚である。

最後に間口先生から「今後増えてくる心臓・血管疾患や睡眠時無呼吸症候群の患者さんを一人でも救うため、医療機関や医師を選んだ地域連携を進めていきましょう」という言葉でしめくりとなった。



Dr. 金子 伸吾

〈経歴〉

1996年 愛媛県立西条高等学校、2002年 愛媛大学医学部 卒業
都立墨東病院で研鑽を積み、2011年より現職

内科認定医、循環器専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医

【ブログ】 <http://mrintervention.blogspot.jp/>